



お薬手帳の重要性

来年度は診療報酬改定がおこなわれます。4月より、薬局でのお薬代や、病院での診察代の変更があります。中でも、お薬手帳の重要性が考慮され、「お薬手帳を持っていない方」「持参されない方」はお薬代が10円～40円ほど高くなります。お薬手帳は薬局にてお渡ししていますので、持ってない方は、スタッフへお声かけください。

診療報酬改定とは

診療報酬＝医療保険(国保・社保など)から医療機関(病院・薬局など)に支払われる報酬
診察・検査・お薬代などの医療行為に対する報酬は、すべて国の基準があり、その基準が二年に一度見直しされることを、診療報酬改定といいます。

お薬手帳とは

いつ・どこで・どんなお薬・何日分・などの情報を、記入または記載された紙を貼るための手帳です。

ほとんどのお薬手帳に、アレルギーの有無や薬での副作用、体質などを書き込む項目があります。

通っている病院が複数ある場合でも、1冊のお薬手帳にまとめるようにしてください。



～あの日の出来事～

お薬手帳は以前からありますが、お薬手帳の重要性が一番大きく取り上げられた出来事があります。2011年におきた、「東日本大震災」です。

病院や薬局が倒壊し、避難所に仮設の診療所が設けられました。持病のある方が普段飲んでいる薬をもとめて殺到しましたが、現場は大変な状況になりました。

「血圧の薬を飲んでいる」「糖の薬を飲んでいる」など、自分が普段飲んでいる薬の効果はわかっても、薬の名前、更にはミリ数まで覚えている方が少なく、通院していた病院のデータも全て失われていたため、医師や薬剤師は、簡易的な診察では適切な判断が難しい状況でした。

その中で、避難時にお薬手帳を持っていた方は、その情報をもとに、適切なお薬を迅速に受け取ることが出来ました。

更に、検査や処置や手術をする場合に、注意が必要なお薬(血をサラサラにする薬など)があります。緊急な時には、意識がなかったり、痛みにより会話もままならないこともありますので、お薬手帳が重要になります。

お薬手帳は、もらっているお薬を記録するための手帳ではなく、医師や薬剤師があなたの健康状態を把握し、適切な判断をするための大切な情報です。あなたの健康を守る「お守り」だと思って、普段から持ち歩くようにしましょう。